

# 管内の概況

## 位置・気候

稚内開発建設部が管轄する宗谷地域は、北海道の北部に位置し、北海道本島最北端の地である宗谷岬は45°31'22"に位置しています。東はオホーツク海、西は利尻・礼文の離島を望む日本海に面しており、北は宗谷海峡を隔てた約43km先にサハリン(旧樺太)の島影を望むことができます。

気候は、日本海、オホーツク海に面する海洋性の気候と、山岳地帯及び河川流域の内陸性の気候に大別することができます。冬は、日本海側では対馬海流の影響もあり氷点下10度以下になることが少なく比較的温暖ですが、風が強いのが特徴です。オホーツク海側では流氷などの影響もあり寒暖の差が大きくなっています。また、夏は海岸地帯より内陸部で気温の高い日が多く、冬の内陸部は寒冷で、降水量、積雪量も多くなっています。



利尻山

## 面積・人口

宗谷地域の総面積は、4,625.70km<sup>2</sup>で、北海道の総面積の約5.5%を占め、ほぼ京都府(4,612.20km<sup>2</sup>)と同じ広さを有しています。管内の人口は、56,543人(令和6年12月31日現在)で、全道総人口の約1.1%となっています。

## 観光

宗谷の観光資源は、希少な動植物の拠り所となる「利尻礼文サロベツ国立公園」、「北オホーツク道立自然公園」を中心に、フォトジェニックな「白い道」やダイナミックな周氷河地形を擁する「宗谷丘陵」、日本のてっぺん「宗谷岬」、泉質の類い稀なる「豊富温泉」、モダンな美しさと歴史的価値を兼ね備えながら越波防止のために現在も活躍し続ける「稚内港北防波堤ドーム」など多様です。

これらの豊かな景観や自然環境に適応する形で地域の魅力を味わう方法として、自転車を活用した観光施策が広がりをを見せています。

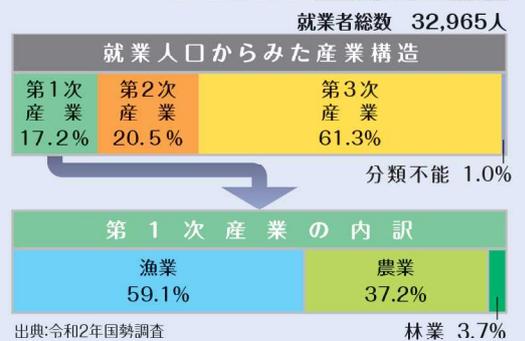


宗谷岬

## 産 業

管内の主要産業は、道内有数の酪農地帯となっている「農業」、沿岸漁業を中心に展開される「水産業」が大きな柱となっています。「農業」では多くの生乳がバターや脱脂粉乳などに加工され、一部は牛乳として全道のコンビニエンスストアなどに出荷されています。「水産業」ではホタテがアジアやアメリカ、EU向けに輸出されるなど、世界に誇るブランドに成長しています。

一方、宗谷地域は全国でも有数の風力発電の適地であり、風力発電施設の建設や送電網の整備など、豊富な再生可能エネルギーを活用するための取組が進められています。



## 農 業

管内の農業は、昭和31年に集約酪農地域の指定を受けて以来、酪農専業に転換を図り、昭和40年代以降は国営農地開発事業等によって生産基盤の拡大を推進し、広大な牧草地を活かした乳牛の多頭飼育による大規模酪農専業地域として発展しています。

離島を除く管内の農業経営体数は679経営体、耕地面積は6万2千haで、経営体当たりの面積は92haと全道平均の約2.8倍に当たる規模となっています。

宗谷農業の概要				
種別	区分	稚内開発建設部管内(離島を除く)	全道	全道対比
農業経営体数 ① (※3)		679	34,913	1.9%
耕地面積 (ha)	総数 ②	62,320	1,141,000	5.5%
	経営体当たり ③ (②/①)	92	33	278.8%
乳用牛 (頭)	飼養経営体数 ④	569	5,543	10.3%
	飼養頭数 ⑤	63,652	810,699	7.9%
	経営体当たり ⑥ (⑤/④)	112	146	76.7%
生乳生産量 (t)		301,958	4,146,981	7.3%

また、乳用牛飼養頭数は6万4千頭、経営体当たりの飼養頭数は112頭、生乳生産量は30万2千tで、乳用牛飼養頭数及び生乳生産量は全道の約7~8%を占めています。

管内の酪農は、豊富な土地資源を活かし、生産基盤の整備、TMRセンター(※1)やコントラクター(※2)の活用による自給飼料の確保、家畜ふん尿の適正還元、農作業の効率化等を図りながら、安全・安心で美味しい生乳等の生産に努めています。



デントコーンの収穫作業

出典: 農業経営体数・乳用牛飼養経営体数・飼養頭数: 2020年農林業センサス  
耕地面積: 2023年農林水産省 作物統計調査  
生乳生産量: 2023年農協聞き取り、全道は農林水産省 2023年牛乳乳製品統計

※1: TMRセンターは、粗飼料と濃厚飼料を混合した飼料 (Total Mixed Ration) を調整する拠点施設  
※2: コントラクターは、粗飼料の収穫作業、ふん尿等散布作業を請け負う組織  
※3: 農業経営体数は、農産物の生産活動を行う農家及び法人数

## 水 産 業

宗谷管内の水産業は、日本海及びオホーツク海に面する恵まれた立地条件や武蔵堆などの優良な漁場を背景に、ホタテガイ、ホッケ、サケ・マス、コンブ、ウニ、ナマコなどの沖合・沿岸漁業が営まれています。宗谷管内の漁業生産量・生産高は全道の約2割を占めており、管内の基幹産業として、水産加工業など関連産業の発展に寄与しています。

令和5年の漁業生産量は16万9千t、生産高は496億円と、令和4年と比べ生産量は約12%の減少、生産高はホタテガイの輸出需要の減少により約24%減少しました。

主な魚種の生産は、ホタテガイが12万t(241億円)、サケ・マスが8千t(51億4千万円)、ナマコが7百t(33億円)、タコが3千t(27億6千万円)となっています。

出典:令和5年北海道水産現勢

# 北海道総合開発計画の推進

## 北海道総合開発計画と第9期計画について

北海道総合開発計画は、北海道開発法に基づき、北海道の資源・特性を活かして、我が国が直面する課題の解決に貢献するとともに、地域の活力ある発展を図るため、国が策定する計画です。

令和6年3月12日、9期目となる北海道総合開発計画が閣議決定されました。

国土交通省北海道開発局は、目標の実現に向けて、他省庁、地方公共団体、住民、NPO、企業、教育機関等の多様な主体と連携・協働して、各種の施策を推進していきます。

### 共に北海道の未来を創る 第9期北海道総合開発計画

#### 計画の目標

計画期間：2024年度からおおむね10年間

近年の社会環境の変化、北海道のポテンシャル等を踏まえ2050年の長期を見据えて、北海道開発を効果的に進めていきます。

#### 2050年の北海道の将来像

- 食、観光、脱炭素化等の北海道の強みを活かした産業が国内外に展開し、豊かな北海道が実現することで、我が国の経済安全保障に貢献している。
- デジタルの実装により、北海道内の地方部における定住・交流環境が維持されるとともに、国内外から人を魅きつける多様な暮らし方が実現している。

- 目標1  
「我が国の豊かな暮らしを支える北海道  
～食料安全保障、観光立国、ゼロカーボン北海道～」
- 目標2  
「北海道の価値を生み出す北海道型地域構造  
～生産空間の維持・発展と強靱な国土づくり～」

#### 計画の進め方

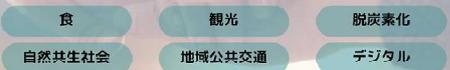
- リアルとデジタルのハイブリッドによる北海道型地域構造の保持・形成  
生産空間は、人々が分散して生活する地域構造となっていますが、食料生産は実際にその場に住民が継続し、観光は実際にその場に行くというリアルを前提に成立しており、リアルを支えるインフラが不可欠です。  
また、生活環境を維持するためには、時間と空間の制約を克服できるデジタル技術の活用が有効です。
- 計画の実効性を高めるための方策
  - 官民の垣根を越えた「共創」
  - 社会変革の鍵となるDX・GXの推進
  - フロンティア精神の再発揮
  - 戦略的・計画的な社会資本整備

#### 共創の取組イメージ

## 共に北海道の未来を創る



国や地方公共団体、住民、NPO、企業、教育機関等と連携・協働し、地域の課題解決や価値向上に向けた「共創」の取組を推進します。



宗谷地域は、水産業や農業を主力に、利尻島・礼文島の有人国境離島をはじめ、サロベツ、北オホーツク等の豊かな自然がもたらす観光資源などを活かした、「生産空間」及び「国境周辺地域」として、重要な地域に位置づけられています。

稚内開発建設部は、産業や暮らしを支える社会資本整備を着実に推進し、地域の活力を高める取組を実施してまいります。

また、政府目標である「2050年カーボンニュートラル」と北海道全体で取り組んでいる「ゼロカーボン北海道」の実現に向け、CO2削減のための知見を備えていくことが求められます。現在推進しているインフラDX/I-Constructionをより一層活用し、さらなる創意工夫と豊かな自然・地域資源を活かした取組によりグリーン社会の実現に向けて、強靱で持続可能な国土を形成していきます。

# 管内市町村の概要

市町村名	面積/人口	市町村の概況	観光案内	市町村名	面積/人口	市町村の概況	観光案内
 稚内市 Wakkanai City	761.42km <sup>2</sup> 30,338人	日本最北端の都市で、水産、酪農、観光が基幹産業。地球環境負荷の低減のため、風力を中心とした再生可能エネルギーの導入拡大を推進している。市名の由来：ヤム・ワッカナイ（冷たい水の出る沢）	稚内公園、稚内森林公園キャンプ場、ノジャップ岬、稚内ノジャップ寒流水族館、道の駅わかかない、稚内港防波堤ドーム、わかかない海の駅、大沼、宗谷岬、メグマ沼、宗谷丘陵、白い道、道立宗谷ふれあい公園、氷雪の門、九人の乙女の碑、旧瀬戸邸	 豊富町 Toyotomi Town	520.69km <sup>2</sup> 3,514人	全国から多くの湯治者が訪れる石油質の温泉、雄大な自然の中で展開されている放牧型酪農、低地でありながら高層湿原の環境を有する大規模湿原が有名なまち。町名の由来：エヘコベツ（何でも豊富にある）	サロベツ湿原センター、豊富温泉、大規模草場牧場、兜沼公園（キャンプ場、オートキャンプ場）、パンケ沼、サロベツ原生花園、宮の台展望台、言問の松
 猿払村 Sarufutsu Village	589.99km <sup>2</sup> 2,590人	日本最北端の村で、北海道で一番面積の広い村。日本有数のホタテの水揚げ地として有名。総面積約8割を山林や原野が占め、手つかずの自然が広がる。村名の由来：サロフト（葦原の河口）	道の駅さるふつ公園、さるふつ公園（インディギルカ号遭難者慰霊碑、キャンプ場）、ポロ沼、カムイト沼、エサスカ原生花園、モケウ二沼、猿払村道工サヌカ線（沖の河川）	 礼文町 Rebun Town	81.64km <sup>2</sup> 2,183人	海抜わずか500mの低地で高山植物が鑑賞できる「花の浮島」。[レプンアツモリソウ]を始めとする固有種の希少さもあり、全国からの観光客でにぎわう。町名の由来：レプンシリ（沖の島）	スコトン岬、澄海岬、地蔵岩、北のカナリアパーク、礼文島温泉、緑ヶ丘公園キャンプ場、礼文岳、高山植物園、久種湖、久種湖畔キャンプ場、レプンアツモリソウ群生地、日食観測記念碑、桃台猫台、桃岩展望台
 浜頓別町 Hemetsuribetsu Town	401.59km <sup>2</sup> 3,221人	オホーツク海に面し、酪農と漁業が盛んなまち。クッチャロ湖はラムサール条約登録湿地であり、コハクチョウをはじめ多くの渡り鳥の中継地、越冬地となっている。町名の由来：トウンベツ（湖沼に入る川）	クッチャロ湖、クッチャロ湖キャンプ場、ペニヤ原生花園、はまどんべつ温泉、ウソタンナイ砂金採掘公園、神威岬、道の駅北オホーツクはまどんべつ、オオワシの森、水鳥観察館	 利尻町 Rishiri Town	76.50km <sup>2</sup> 1,830人	利尻昆布やウニなどの海の幸の豊かさを、漁師体験や加工体験を通じて体感することが出来る。植生の多様さも見所。町名の由来：リイ・シリ（高い島）	利尻山、見返台園地、沓形岬公園、沓形岬公園キャンプ場、仙志志御崎公園、森林公園キャンプ場、利尻ふれあい温泉、利尻島の駅
 中頓別町 Nakatombetsu Town	398.51km <sup>2</sup> 1,472人	北緯45度線上に位置し、酪農と林業が基幹産業。カヌー体験や登山などのアウトドアが充実する雄大な自然に恵まれたまち。町名の由来：トウンベツ（湖沼に入る川）	中頓別鍾乳洞、パーチャン川砂金掘体験場、敏音知岳、ピンネシリ温泉、ピンネシリオートキャンプ場、道の駅ピンネシリ	 利尻富士町 Rishiri Furusato Town	105.62km <sup>2</sup> 2,152人	日本百名山「利尻山」の登山者を、名水百選「甘露泉水」と森林浴の森日本百選「利尻島自然休養林」が迎え入れる。豊かな自然に恵まれた観光と漁業のまち。町名の由来：リイ・シリ（高い島）	利尻山、姫沼、オタトマリ沼、沼浦キャンプ場、利尻富士温泉、ファミリーキャンプ場ゆ〜に、富士野園地、北麓野宮場
 枝幸町 Esashi Town	1,115.65km <sup>2</sup> 7,202人	広大な土地に広がる森林と豊かなオホーツクの海に囲まれたまち。毛ガニ、ホタテ、サケの一大生産地。(2006年3月、旧歌登町と合併) 町名の由来：エシヤシ（海岸へ突出した岬）	ウスタイベ千畳岩（キャンプ場、オートキャンプ場）、三笠山展望台、オホーツクミュージアムえさし、枝幸温泉、道の駅マリーンアイランド岡島、ハマナス交流広場、ふれあいの森キャンプ場、神威岬、歌登温泉	 幌延町 Horonobe Town	574.10km <sup>2</sup> 2,041人	冷涼な気候を生かし、神秘的な「青いケシ」を始めとする高山植物を栽培している。観光牧場では年間を通してトナカイとふれあうことができる。町名の由来：ポロ・ヌブ（大きな平原）	トナカイ観光牧場、金田心象書道美術館、オトンルイ風力発電所、幌延ビクターセンター、パンケ沼、ふるさとの森森林公園キャンプ場
合計				4,625.70km <sup>2</sup> / 56,543人			

出典：面積は令和6年10月1日現在全国都道府県市区町村別面積調（国土地理院）  
人口は令和6年12月31日現在住民基本台帳人口・世帯数 住基ネットにおける人口【参考値】（北海道総合政策部）  
※なお、面積の合計値は、端数整理により一致しない場合があります。